

「冬の事故」に注意しましょう！



1. 火の用心！

1) 石油ストーブの給油事故

給油時に給油口キャップを斜めに締めたため、石油ストーブに戻す際に灯油が漏れて火災になった、灯油とガソリンを間違えて給油した、といった事故が毎年発生しています。

《注意》給油の前に、必ず消火！

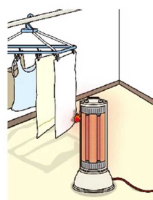
給油時は、カートリッジタンクのふたが完全に締まっているかどうか必ず確認

灯油は専用の容器に入れ、ガソリンとは別の場所で保管



2) 電気ストーブでの火災

就寝中、電気ストーブに布団が触れて出火、干していた洗濯物やカーテ



ンが電気ストーブに触れて火災になった、といった事故も発生しています。

《注意》就寝前に、必ず消火！

暖房器具の周辺に、スプレー缶や燃えやすいものを置かない

洗濯物をストーブの上部や近くに干さない

外出時は電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く

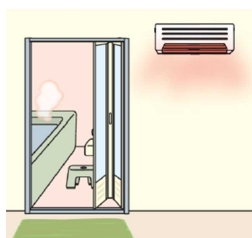
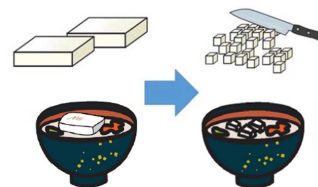
2. カイロや湯たんぽなどによる『低温やけど』に注意！

心地よく感じる程度の温度のものでも、皮膚の同じ部分に長時間触れることで低温やけどになる場合があります。電気カーペットや暖房便座でなる場合もあります。特に乳児は短時間でも低温やけどになる場合があるので、気を付けましょう。低温やけどは、見た目より重症の場合があります。

痛みや違和感があるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。

3. 高齢者のもち・入浴による事故に注意！

12月・1月に餅による窒息事故が多く発生しています。高齢者が食べる餅は、あらかじめ小さく切っておき、先にお茶や汁物で喉を潤しておきましょう。お茶などで無理やり流し込もうとするのは危険です。少しずつ口に入れ、よく噛んで食べましょう。



高齢者は、寒暖差などで急激に血圧が変動すると、脳内の血流量が減り、意識を失うことがあります。

これが入浴中に起きると、溺水事故につながります。食後や飲酒後の入浴を避け、入浴前には、浴室内や脱衣所を温めておきましょう。湯温は41度以下にし、長時間の入浴は避けましょう。

～困ったらすぐ相談～ 一人で悩まず、消費生活センターに相談してください。